報道関係者各位　　2010 年 7 月 7 日

≪第十報≫

セーブ・ザ・チルドレン　ハイチ地震発生から 6 カ月

子どもが子どもらしく生きられるハイチ、を目指して

社団法人　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

7 月 13 日(現地時間 12 日)、ハイチ地震が発生してから 6 ヶ月が経過します。子ども支援のための国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン(以下 SC)では、被災した子どもたちとその家族への支援活動を続けていますが、子どもたちの生活はいまだ危機に直面しています。ハイチは、復興に向けて今後も長期的な支援が必要です。

SC は、地震発生以前から、ハイチにおいて過去 30 年にわたり活動を展開してきました。地震発生直後より、食糧やシェルターをはじめ、人々の命を守るために必要な物資の配布を迅速に行い、今日に至るまで、およそ 682,000 人の子どもたちと家族に支援を届けています。

「私たちは、ハイチが地震発生前よりもよりよい状態になるよう復興支援をしていきます。この道のりは長く、国際社会は、これまでに約束した長期的な資金提供と説明責任を果たす必要があります。災害でもっとも弱い立場に置かれるのは子どもたちです。復興の過程で子どもたちは守られ、健康で幸せな生活を送ることができるように取り組むのが私たちの責務です。」（SC ハイチ　カントリー・ディレクター　ゲリー・シェイ談）

【子どもの保護活動　チャイルド・フレンドリー・スペース】

“たくさんのひどい光景を見たけど、チャイルド・フレンドリー・スペースに来ると楽しいの。最初は恥ずかしがっていた子も、今では輪の真ん中で踊ったりするのよ！それに喧嘩もなくなった。カウンセラーさんが何で喧嘩は良くないのか説明してくれたから。”

サンディ（15 歳）ジャクメルの CFS で SC が運営するチャイルド・フレンドリー・スペース（CFS）は、親が生活再建のため奔走している間子どもたちに安全な場所を提供するためにハイチ中に開設されています。ハイチの CFS では、音楽やダンスを中心に、子どもたちが安心を感じ、自らを表現し、地震で受けた心の傷を回復していけるようなアクティビティを行っています。カウンセラーが歌い出すと、子どもたちは生き生きとしはじめ、輪を作って踊り出し、テントの中は活気で満ち溢れます。

SC は地震発生以来、子どもの保護のために 54 の CFS を開設しました。これからも、子どもたちが 1 日も早く地震前の日常を取り戻し、子どもが子どもらしく生きることができるようハイチの復興支援に取り組んでいきます。

■セーブ・ザ・チルドレンとは：1919 年に設立した子ども支援 NGO。現在、世界で 29 のそれぞれ独立した組織がパートナーを組み、世界最大のネットワークで 120 カ国以上で活動を展開しています。
90 年にわたる活動は、世界のNGOの代表格として各国政府からもその重要性を認められています。